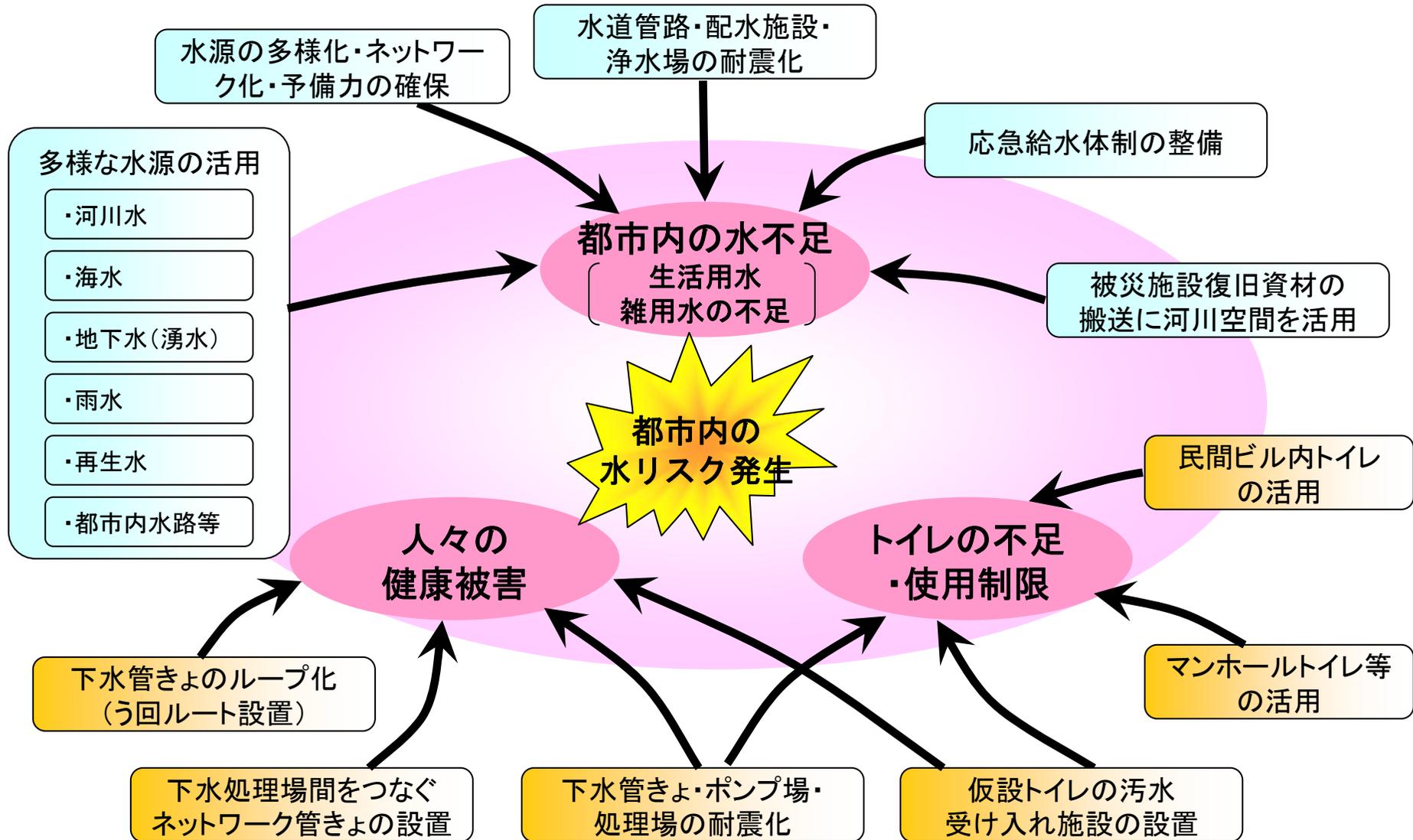
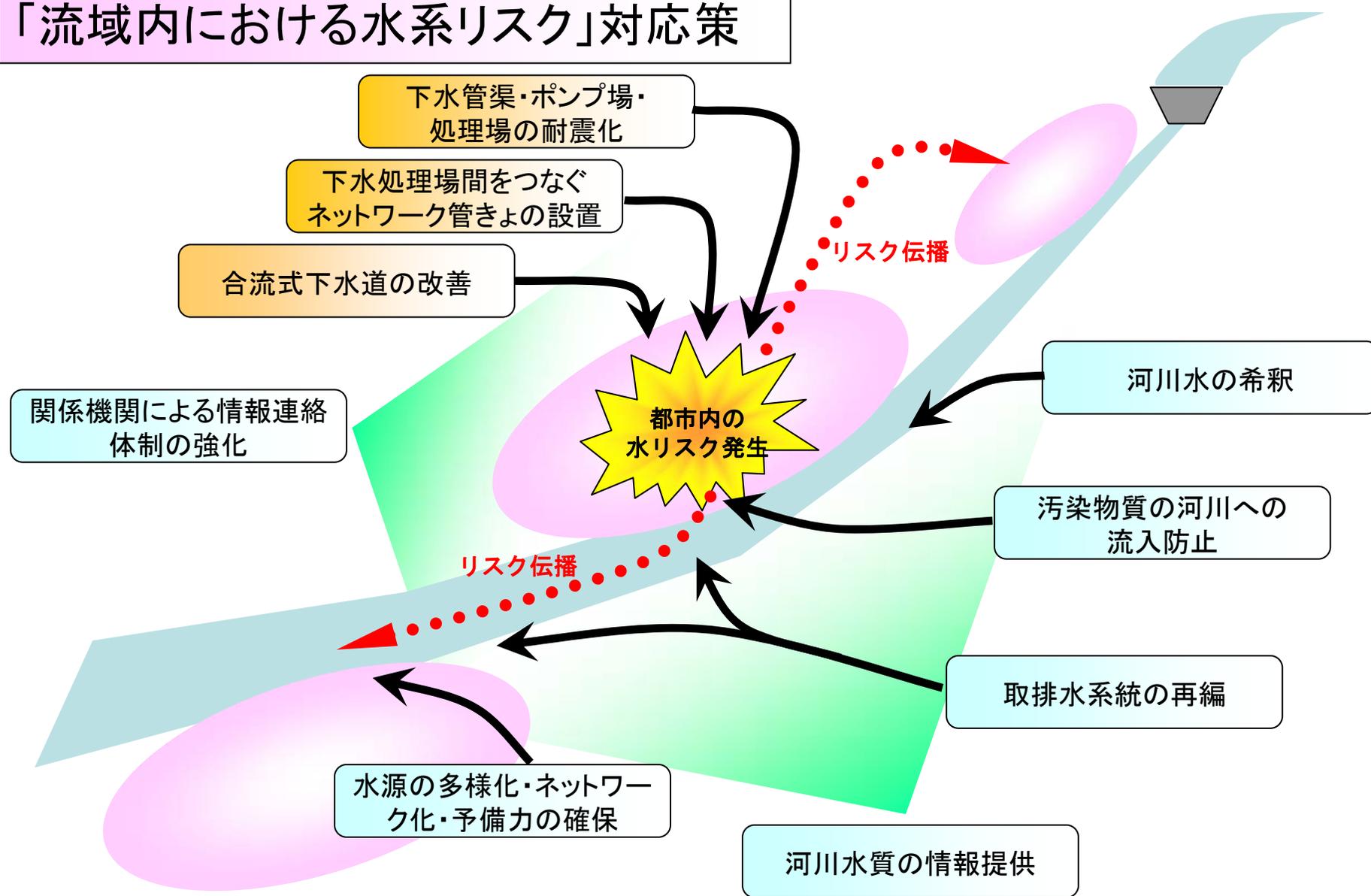


「都市内の水リスク」対応策



想定されるリスクへの対応策

「流域内における水系リスク」対応策



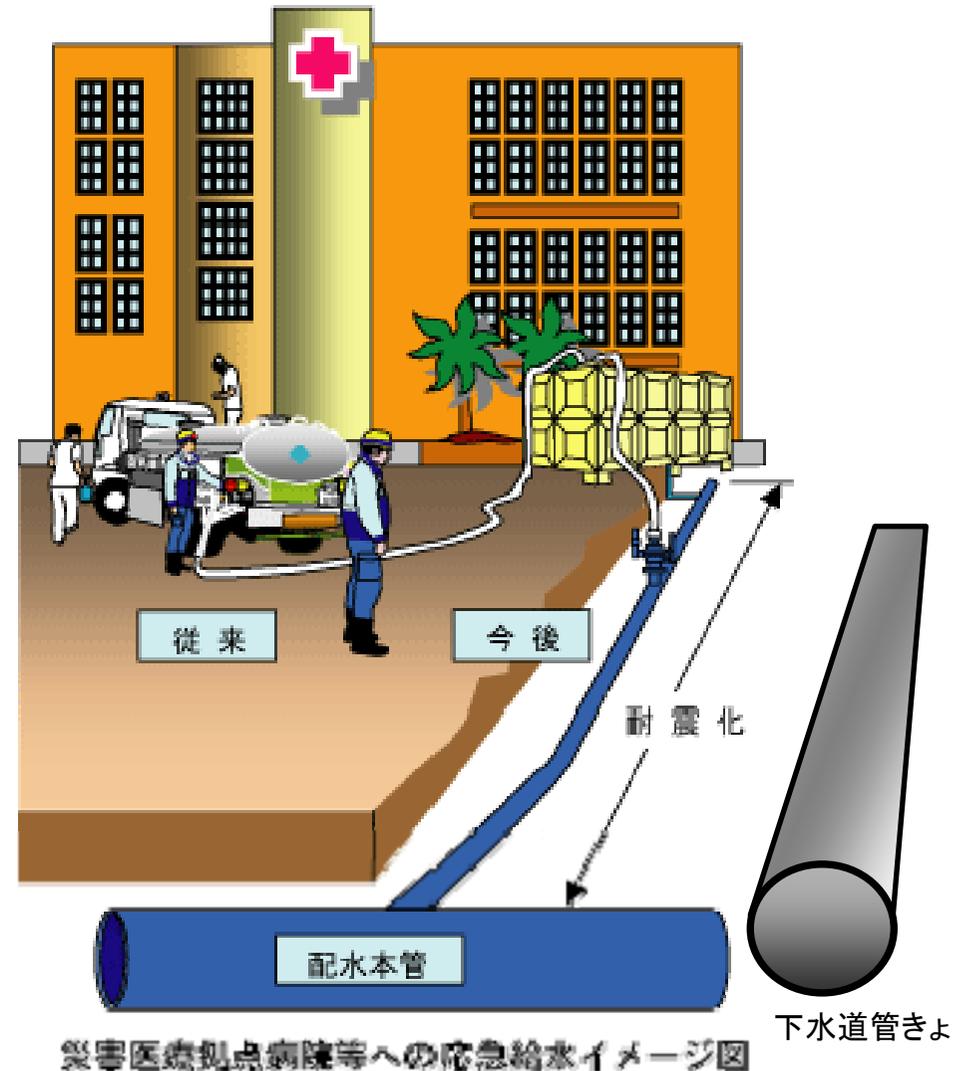
想定されるリスクへの対応策

病院，避難所等の重要拠点につながる管路の耐震化

●病院、避難所等の重要拠点につながる管路を優先的に耐震化することで断水被害を防止し、水道管からの給水を継続することにより、断水による医療活動等の停滞を防止する。

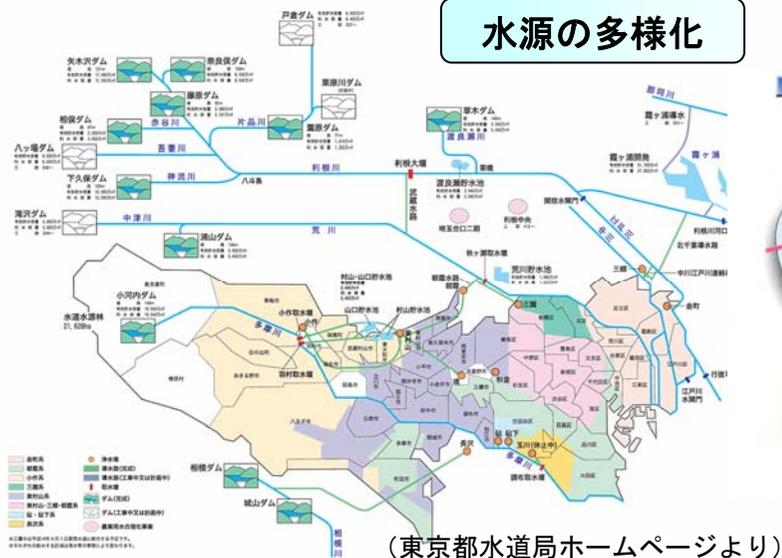
(横浜市水道局ホームページより)

●あわせて、病院、避難所等の重要拠点につながる下水道管きよの耐震化を行うことにより、汚水排除機能を確保する。



水源の多様化, ネットワーク化・ブロック化, 予備力の確保

水源の多様化

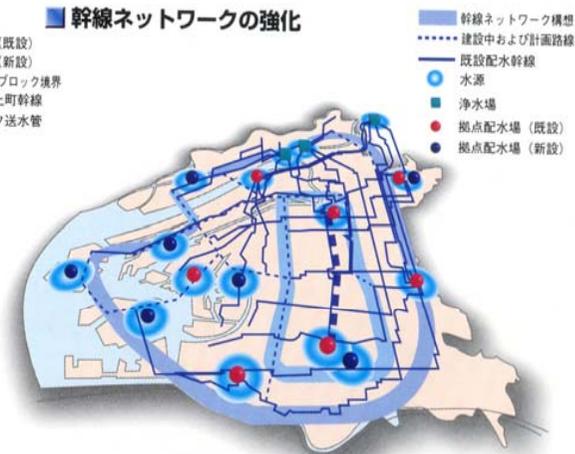


ネットワーク化・ブロック化

配水管理のブロック化



幹線ネットワークの強化



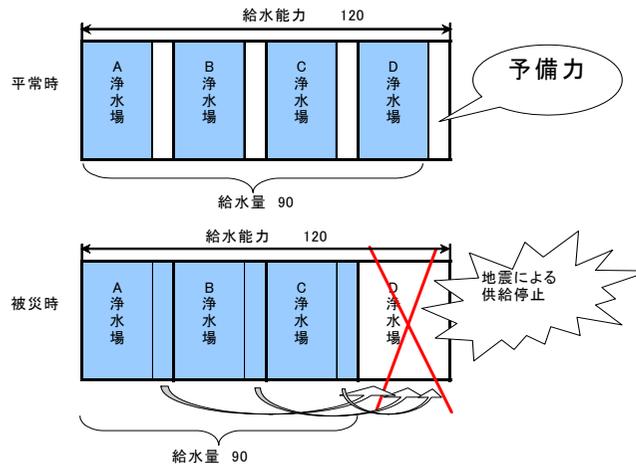
(大阪市水道震災対策強化プラン21基本構想より)



隣接水道事業との緊急時連絡管の整備

(記者発表資料より)

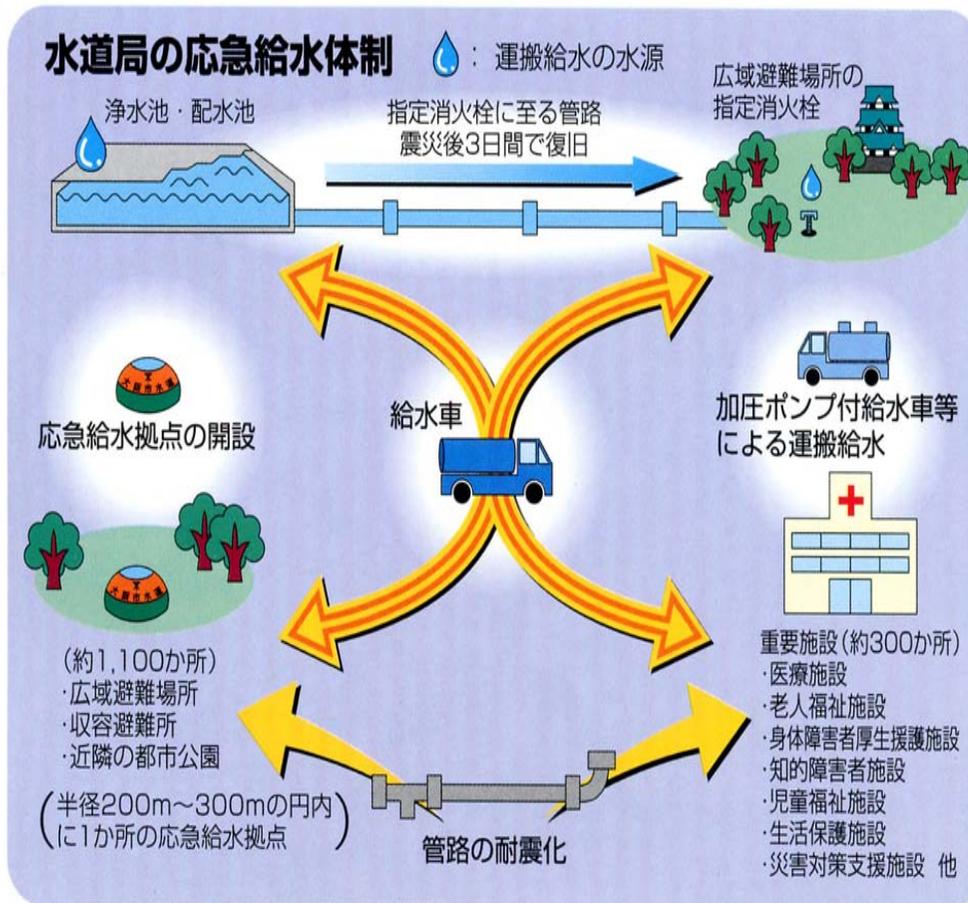
予備力の確保



被災により浄水場の一つが供給停止になった場合においても、予備力が確保されていれば対応が可能。

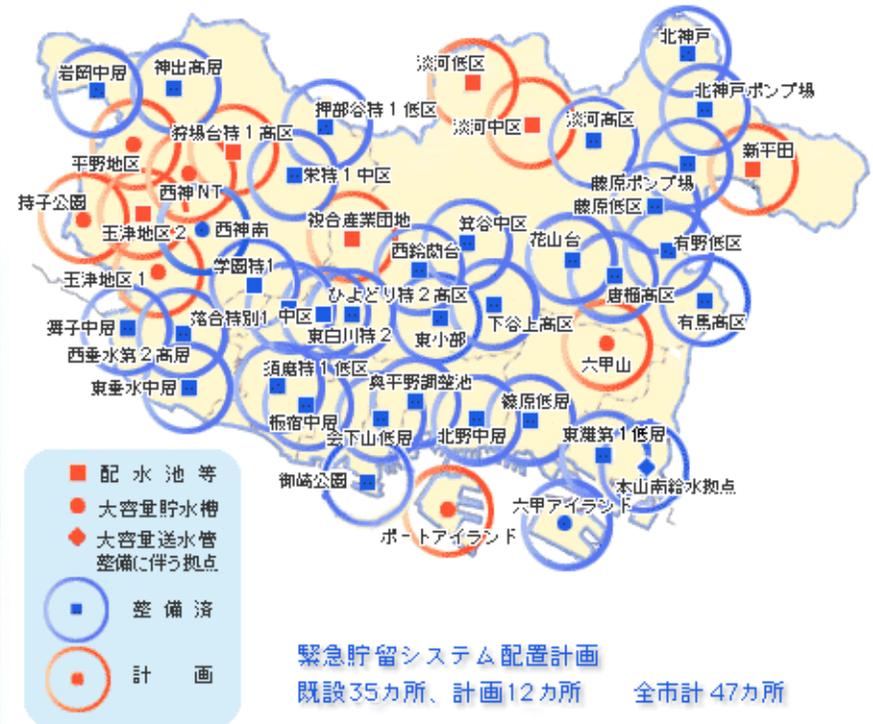
応急給水体制の整備

配水池の増設等により、バランスのとれた給・配水拠点を増強するとともに、応急給水や応急復旧に係る応急活動基地として必要となる設備をこれらの拠点到に併設し、事後対策の充実を図る。また、重要施設等が断水した場合には、これらの拠点を給水基地として給水車等による運搬給水を優先的に実施する。

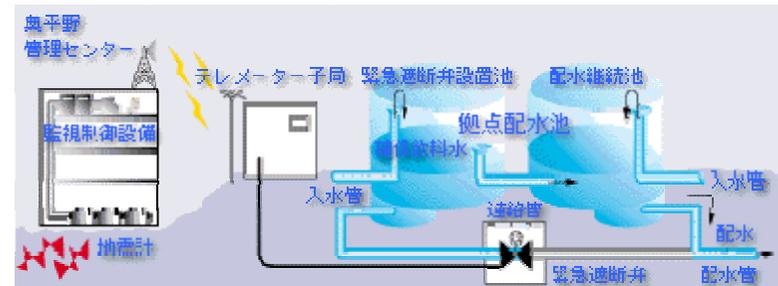


(大阪市水道震災対策強化プラン21基本構想より)

●運搬給水基地の整備状況



●緊急遮断弁の作動システム



(神戸市水道局ホームページより)

上下流関係機関との連絡体制等の整備・充実

- 工場，事業所も含めた流域における広域的な情報ネットワークの確立
- 水質監視体制の強化及び水質データの共有化
- 緊急時(地震、水質事故等)の連絡体制の強化 及び対応方策の策定



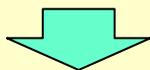
想定されるリスクへの対応策

河川水質汚濁時のリアルタイム情報提供

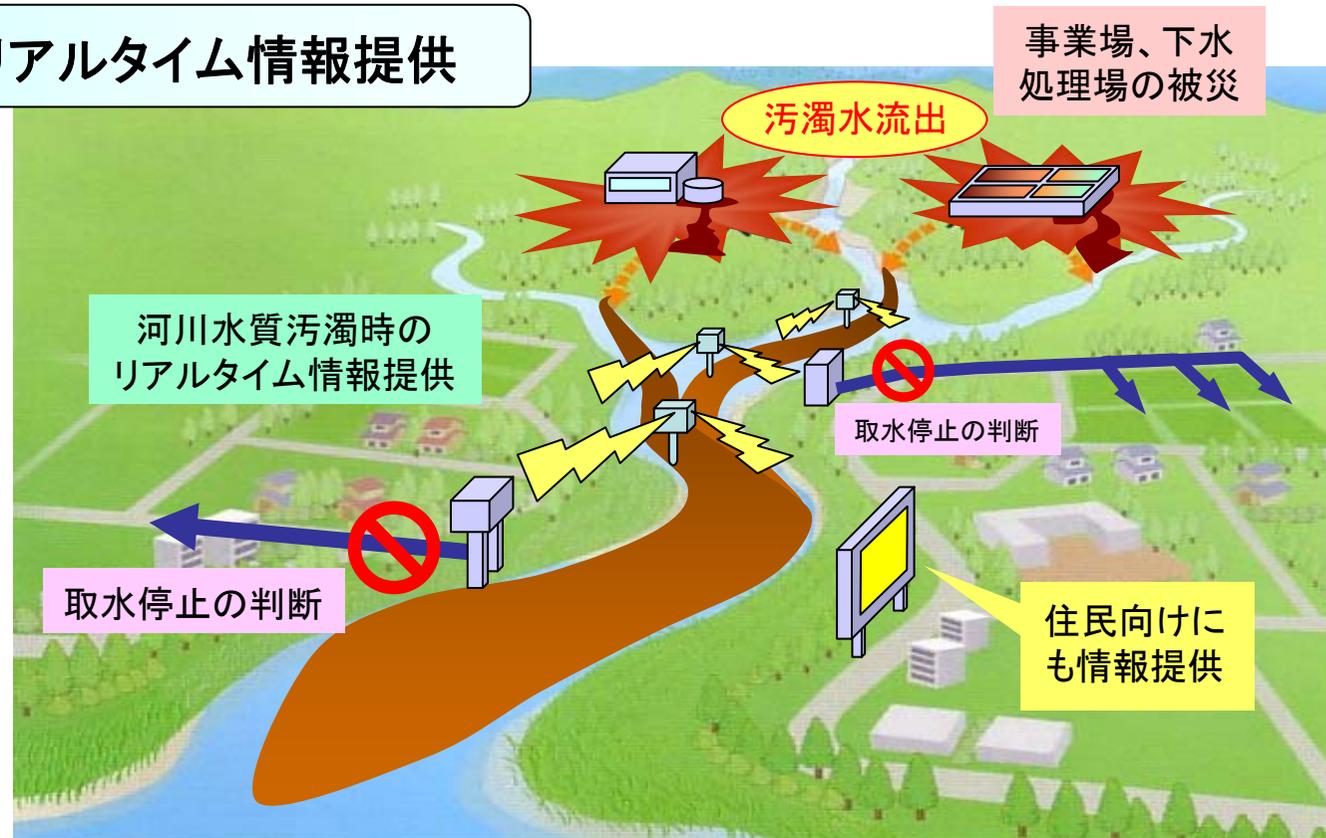
- ・河川水質の状況を、水道事業者等関係機関、沿川地域住民等に対し適切に情報提供することが有効



水質自動監視装置
等による常時観測



- ・関係機関との一層の連携強化
- ・リアルタイムの情報提供
インターネット
携帯電話
電光表示板 等



水質自動観測装置



様々な情報提供方法



電光表示板



インターネット等

想定されるリスクへの対応策

地下水(井戸・湧水等)・雨水の活用

●災害対策用井戸・災害時協力井戸の整備、地下鉄トンネル内の湧水の活用、雨水貯留施設の普及推進が考えられる。



雨水貯留施設



災害時協力井戸



雨水貯留施設

災害対策用井戸

地下鉄トンネル内の湧水



想定されるリスクへの対応策

下水道管きよを利用して河川水や海水を引き込み，消火用水等として利用

●地震発生直後に多量に必要とされるに消火用水に対して，下水管きよから河川水または海水を取り込み，消火用水等として活用する。



新設海水取水口



城門放流幹線水門



海神小内海水取水口

(第1回検討委員会資料：船橋市ホームページより)

想定されるリスクへの対応策

都市内水路や再生水等を活用した緊急時の雑用水確保

●避難所周辺の都市内水路を緊急時の雑用水に活用する。



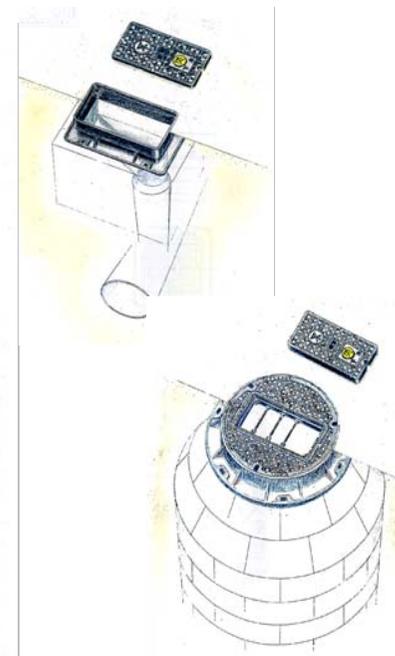
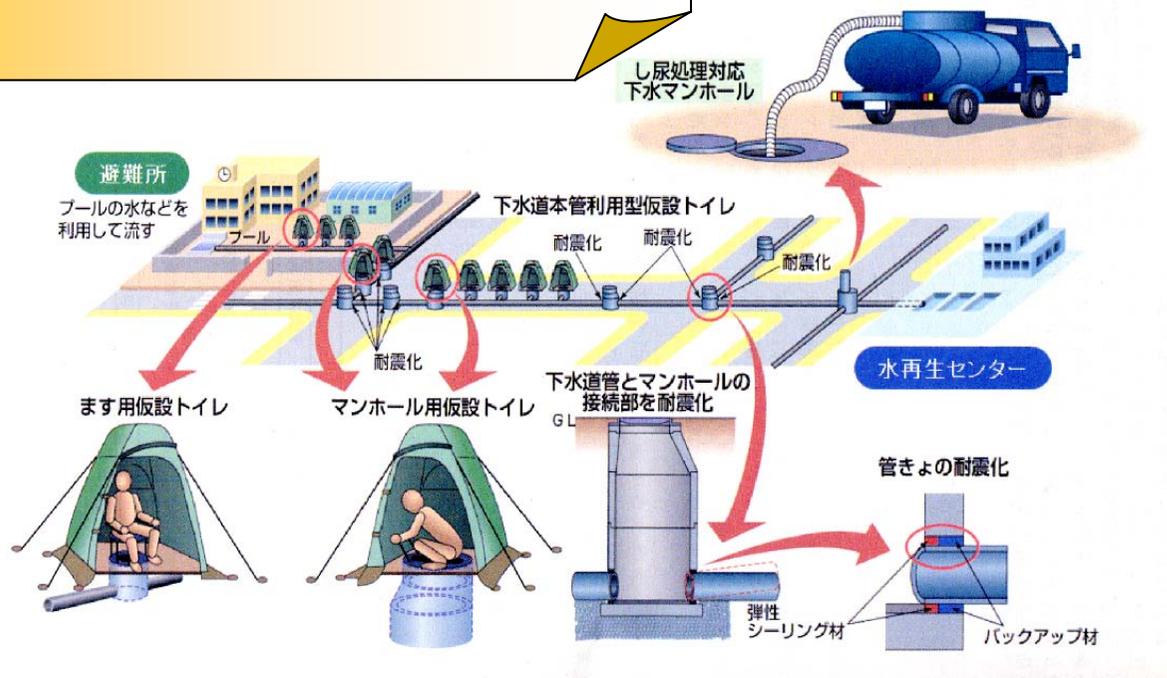
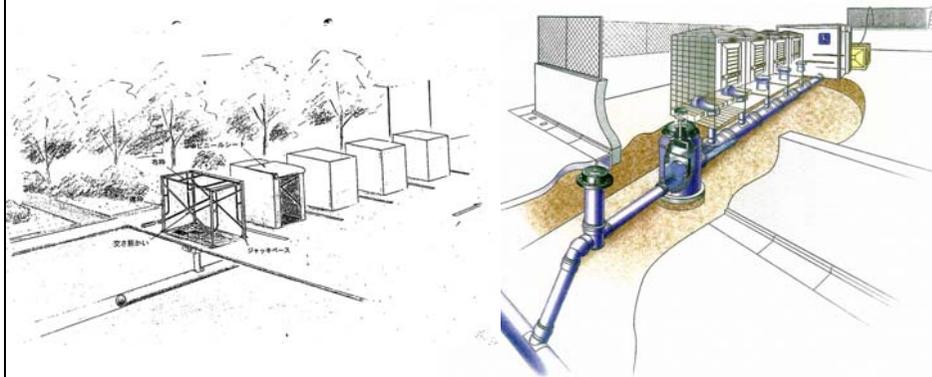
●下水処理水の再生水を、緊急時の雑用水に活用する。



想定されるリスクへの対応策

マンホールトイレの活用等

- 病院、避難所等の重要拠点における緊急時の避難者・帰宅困難者のトイレ不足に対して、マンホールトイレ等を整備する。
- 民間ビル等へ緊急時のトイレ貸し出しの協力を依頼する。
- 管きょ施設を利用して、し尿の一時貯留を実施する。



想定されるリスクへの対応策

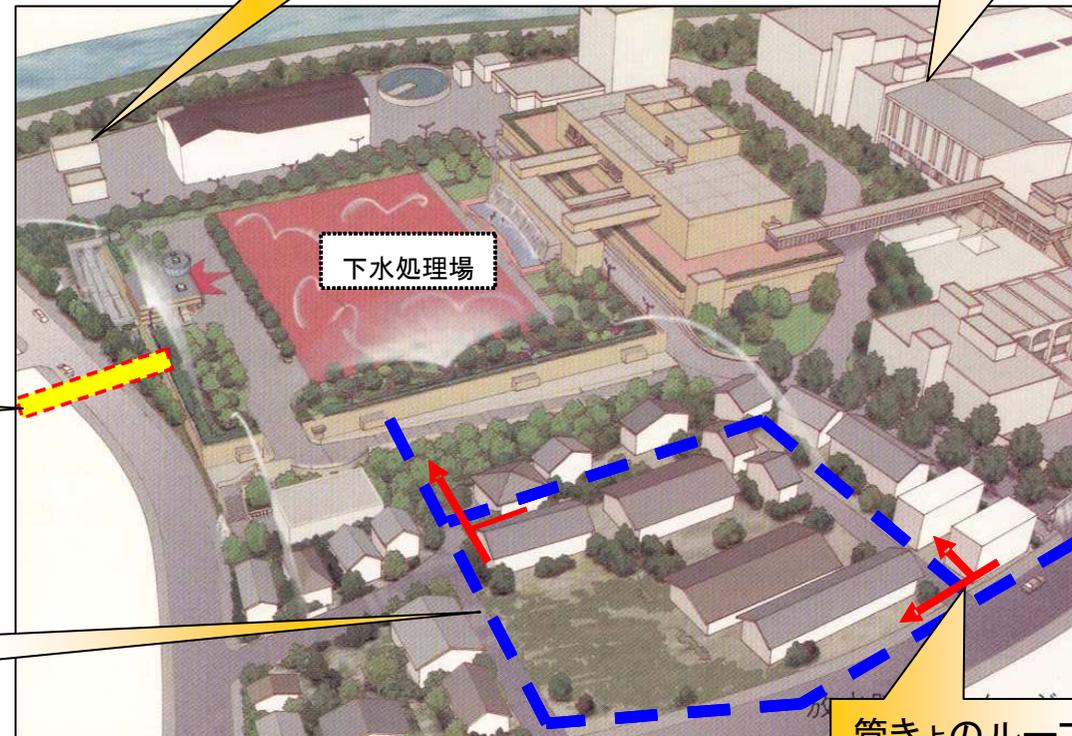
下水管きよ, 下水処理場の耐震化等

- 病院, 避難所等の重要拠点につながる下水管きよについて耐震化を図る。
- 下水道が最低限有すべき機能を確保する耐震化及びバックアップ対策等を推進する。

非常用資機材の備蓄
(例: 仮設ポンプ)



消毒施設の耐震化



処理場間をつなぐネットワーク管渠

重要危険管渠の耐震化

管きよのループ化
(う回ルート設置)